
金属鉱山研究会あらため鉱山研究会

ニューズレター No. 7 5

2009年2月6日

- | | | |
|---|-------------------|------|
| 1 | ホームページの開設について | 事務局 |
| 2 | 第22回鉱山の映像を観る会のご案内 | 橋本康夫 |
| 3 | 研究大会/総会のお知らせ | 事務局 |
| 4 | 情報と文献紹介 | |

金属鉱山研究会あらため鉱山研究会 連絡先

会長 村串仁三郎

〒270-0127 流山市富士見台2-5-16-13-401

電話・ファックス 0471-52-8952

メール・アドレス

事務所 国学院大学、若木タワー第913号、菅井益郎研究室

〒150-0011 渋谷区東4-10-28

1 ホームページの新規開設について 事務局

これまでわが研究会のホームページについて議論してきましたが、おおよそ基本方針が決まりましたので、ご披露させていただきます。

1 研究会の既存のホームページについて

これまで、金属鉱山研究会のホームページが開設されていました。今となってはどのような手続によって開設されたかよくわかっていないのですが、一つは、当時の事務局長であった村田淳会員の多分に個人的努力で立ち上げられようです。またコンテンツの管理については、元会員であった持元宏さんが、好意でおこなっていただいた

ていました。

村田淳会員が個人的事情で、会の運営から手を引いて以来、ホームページの運営はほぼ冬眠状態になっていましたが、研究会では、新方針とあわせ、昨年度から、あらためてホームページをどうするか議論がなされてきました。

2 ホームページの開設を確認

混乱していた研究会運営は、一応村串会長になってからほぼ回復し、会報の定期的発行、ニューズレターの4回程度の発行、不定期だが研究会の数回の開催、従来どおり橋本会員主催の映像の会の開催、村田会員主導の鉱山巡検の実施など、最低の活動を維持してきました。

ただ会長の不覚があって、放棄されたままになっていたホームページの扱い、昨年の総会の折に、ホームページをどうするかの問題が正式に提起され、昨年度の総会では、ホームページの是非について論議をすることを決め、開設希望者がおおく、開設の方向で数回関係者で議論をすすめてきました。

最終的に、昨年10月29日の映像の会の後の事務局を中心とした会員の間で、ホームページは改めて開設する。新規の立ち上げについては、山本会員にボランティアでお願いする。新規の立ち上げについては、最少額の費用を投じる。差し当たり、旧コンテンツを基本的に継承する。当分、一般的な掲示板の類は開設しないが、「会員相互の情報交換の掲示板」を開設する。ホームページへの投稿を希望する会員には、パスワードを委員会で作成して送る。ホームページの運営は、会員が協力しておこない、コンテンツの更新については当分山本会員に協力をお願いする。3月を目途にオープンする。などが決められました。

3 新規開設に伴う作業。

改めてホームページを開設するに際して最低必要な作業が幾つかあります。

① ホームページの運営方法、方針

ホームページの運営については、組織的な対応が必要です。

そこで次のような「ホームページ運営委員会」設置を提案します。

ホームページ運営委員会規定（案）

- 1 ホームページ運営のために委員会を設置する。
- 2 ホームページの運営は、この委員会が責任をおう。
- 3 委員会は、事務局を中心として構成する。

当分、委員は、川俣、久保、山本、村串、他？、とし、川俣が委員長として最終的責任をおう。

- 4 運営委員会は、コンテンツの内容、内容の更新を管理し、責任をもち、提供されたホームページ掲載の意見、情報については、取捨選択して、内容について一

定の修正をおこなうことができる。

5 委員の選定は、総会事項とする。

② 研究会ホームページの新方針について

研究会ホームページの新方針について、以下の文書を掲載する。

「ホームページ新規開設にあたってのご挨拶」(案)

会長村串

これまで開設してきた金属鉱山研究会のホームページは、新しく鉱山研究会として再出発したので、これを閉鎖し、新しく体制のもとで改めて新規に開設することになりました。コンテンツについては、旧来のホームページとほとんど変わりませんが、研究会としてきちんとした運営をおこないますので、ご高覧下さい。なお、鉱山研究へのご意見、お問合せは、事務局あるいは会長あてに、Eメール、ファックスまたは手紙などでお寄せください。また表紙の写真は3ヶ月ごとくらいに更新するので、会員の投稿を期待します。鉱山文献、その他の鉱山関係の情報の提供に期待します。

ホームページへの掲載をされる場合は、運営委員会で検討して、しかるべく対応したいと思います。

③ 以下の入会案内を掲載する。

「入会案内」案

鉱山研究会は、1973年11月に設立した鉱山に関する領域の研究を目的とした会です。会員は鉱山会社社員、元鉱夫、元鉱山経営者、研究者、写真家、博物館学芸員、会社員などです。

研究テーマは、鉱山史、労働運動史、経営学、文化、鉱石、廃墟、公害、地質など様々です。年1回発行の「鉱山研究」、随時発行の「ニューズレター」、研究大会、例会、読書会、鉱山の映像を見る会、合宿、巡検のほか海外学会への参加などの活動を行っています。

活動の一部は、国会図書館ホームページの雑誌記事検索で雑誌名「金属鉱山研究」か請求番号「Z17-703」のどちらかを入力して検索すると、掲載論文が表示されますので参考にして下さい。入会資格は特にありません。興味、研究分野を問いません。鉱山に何らかの興味をお持ちの方ならどなたでも歓迎します。

入会を希望する方は、郵便番号270-0127千葉県流山市富士見台2-5-16-13-401 村串仁三郎まで郵便または、ファックス0471-52-8952でお申し出下さい。会費は年間3000円です。

④ ホームページの内容の確認

目下ホームページの主要項目は、以下のように考えています。

ご挨拶

お問い合わせ先

ニューズレター

入会案内

例会／研究大会

鉱山・鉱業文献紹介

鉱山巡検

鉱山関係情報紹介

鉱山の映像を観る会

情報交換 BBS

海外鉱山文献 読書会

「新着情報紹介」（常時新しい情報を掲載するコーナー）

2 【第22回 鉱山の映像を観る会のご案内】 橋本康夫

第22回は今年初めての上映会ですので、例年にならって映画を中心にした作品を上映したいと思います。今回は北九州の炭鉱を舞台にしている映画を選びました。関心ある方達のご参加をお待ちしています。

■日・時 2009年2月28日(土)・13時00分(開場)・

13時30分(上映開始)から17時00分まで

参加無料・案内看板は「鉱山研究会」と表示しています。

■会場：渋谷勤労福祉会館・2F・第4洋室・

渋谷区神南1-19-8・渋谷駅下車徒歩7分・公園通り・パルコ前

電話03-3462-2511

<http://www.city.shibuya.tokyo.jp/est/kinro.html>

(リンクしていませんのでコピーして下さい)

■上映項目

「おとし穴」 勅使河原宏監督作品・ATG 1962年製作・97分・モノクロ・

原作は、テレビ部門の昭和三五年芸術祭奨励賞を得た安部公房作『煉獄』で、作者自らシナリオに書き改めた。勅使河原プロダクションの第一回作品で、勅使河原宏が監督したスリラー?もの。

不況の北九州炭鉱地帯。人間の住まなくなった長屋の裏のボタ山では、主人を失った野良犬が吠えていた。ボタ山の下には、ドロドロした陥没湖があった。ある夏、一日のうちにこのドロ沼で三つの殺人事件が続いて起った。死体たちの幽霊が起き上り殺し屋を追いかける。すべての事件を見ていたのは炭坑夫の子供だ。事件の真相は何か。

http://search.variety.japan.com/moviedb/cinema_20808.htmlより抜粋

NHK 地球ドラマチック「地底のゴールド・シティー・南アフリカ タウトナ金鉱山」・制作 ブライトサイド・テレビジョン(南アフリカ 2005年)・2006年5月3日NHK教育TV放送・45分・カラー

南アフリカ、カールトンビルにある地底3.6キロの立坑、全長800キロの坑道、2.5万人が働くタウトナ巨大金鉱山の全貌を紹介。その歴史はもちろん、鉱山に必要なあらゆる技術を紹介していて理解しやすく編集している。スケールの大きい鉱山の全貌は見応えがあるし、中小を問わず全鉱山に共通している諸問題を取り上げているので鉱山に興味ある人は必見だ。

当日の上映時間割り(時間的には厳守の予定です)

13時00分 開場

13時30分~15時10分 「おとし穴」

15時10分~15時25分 15分間の休憩

15時25分~16時10分 「地底のゴールド・シティー・南アフリカ タウトナ金鉱山」

16時10分~17時00分 「上映項目の感想・次回上映項目」研究会からのお知らせ等

17時00分 解散・懇親会へ(09年新年会を兼ねて)

(事務局会議を兼ねますので、関係者の出席を希望します、この項、村串記)

※ 時間は突然の変更もありますので一応ご了承下さい。

上記鉱山・炭鉱関連ビデオ等をお持ちの方で上映してもいいと思う方、また、ビデオのリスト等がある方、借用できるところを御存知の方、各種問い合わせは下記のメールにてご連絡をお願いします。なお、上映したビデオの貸し出し、ダビング等は固くお断り致します。

※ 各種問い合わせ等は下記のメール・電話・FAXにてお願いします。

ー 鉱山研究会・足尾研究会

橋本 康夫(Yasuo Hashimoto)

電話・FAX 03-3328-8335

y-hasshii@hkg.odn.ne.jp <http://www2.odn.ne.jp/ashio-kenkyukai/>

3 研究大会/総会のお知らせ

事務局

日時 4月18日(土)、2時—6時

場所 法政大学市ヶ谷校舎、80年館7階会議室(予定)

(変更もありますので、出席予定者は、必ず1カ月前にお申し出下さい。会場の変更がありまらたら、再度連絡します。)

1 研究大会2時—3時か4時

報告者1 金丸哲也氏「日本亜鉛製錬小史」

2 その他

尚、当日の報告者を募ります。希望者は、村串または川俣までご連絡下さい。

2 総会 3 時か 4 時—5 時か 6 時

新年度方針案提案

会長 村串仁三郎

会計報告

会計 久保敦子

ホームページの運営について

川俣修寿

資料

総会に提案される新年度方針案について

会長 村串仁三郎

- 1 年 1 回の会報の発行、ニューズレター数回の発行。
- 2 最低 3 回程度の研究会の開催。
- 3 映像を観る会、鉱山巡検など研究会として支援。
- 4 ホームページの運営。
- 5 希望者による会員メーリングリストの作成、交流。
- 6 当分、3 0 0 0 円会費による運営。
- 7 会員住所録の作成。
- 8 その他、必要に応じた活動。

ホームページの運営方針案について

川俣修寿

(既報の「ホームページの新規開設について」を参照)

4 情報と文献紹介

軍艦島に関するもの DVD と写真集

橋本康夫

- ◆ DVD『軍艦島オデッセイ-20 世紀未来島を歩く-』企画・制作：オープロジェクト・2008 年 12 月 12 日発売・本編 45 分+特典映像 15 分・16:9 LB ビスタサイズ・カラー・ステレオ・発売元・日活株式会社・税込価格：4,935 円

「軍艦島」とは長崎県の最西南に浮かぶ炭鉱の島「端島」の通称である。今端島は世界遺産登録問題、また今年 4 月から島に上陸する観光地化の予定をしております注目されている。

オープロジェクトとは端島を中心としたいわゆる「廃墟」といわれる写真のポストカードや DVD を製作・発表する映像と音楽のグループだ。彼らのいいところは単に廃墟を追うのではなく、そこにまつわる人間やその歴史を考察して、自らの生き方を考えようとする「姿勢」を持ち続けていることだ。地道で着実な活動が続いているので私は数年前から注目している。また、当研究会とも端島の上映会を共催し、常に上映会への参加を呼びかけているし情報の交換等の交流が続いている。

そのオープロジェクトが 4 年前に製作した DVD「軍艦島-FOREST OF

RUINS-」に引き続き新たな DVD をリリースした。待望の新作 DVD だ。

今回の DVD は島の歴史を現在から過去にさかのぼり「人が住んでいた時代の軍艦島」を主に貴重な閉山前の映像・写真を駆使し、当時の生活の様子を甦らせながらの構成で端島の姿を紹介している。また、「30 年ぶりに故郷・端島を訪ねた時に見たモノは…」をテーマに端島出身の声優「石森達幸」を起用し、より深く広い「軍艦島像」を表現しようとしている。結果、~懐かしくてやさしく、そして力強かった「昭和」という時代を追体験できます(同 DVD のチラシから)~を目指したように思える。下手をすると企画と共に共倒れで命取りになりかねない危険な手段をあえて用いた。しかし、見事にオープロジェクトの総力を結集し、イヤミも無く、この DVD の流れの中に自然にとけ込む編集でより理解しやすい DVD に仕上げた。また、他の組織からの映像の借用やそれと合成する技術はたいへんな時間と労力を費やしたと思われる。その努力に対して十分にみあう評価を得られる作品だといえるだろう。私はその点を評価したい。軍艦島・端島に興味ある方はぜひご覧頂きたい。この結果を踏まえて彼らは次に何をするのか、その次も楽しみになって来た。

その他、特典映像は「軍艦島の墓所・中ノ島」の全貌はなかなか見られない映像が多数あり、とても参考になる。しかし、「旧島民のインタビュー」「コメンタリー」は時間的にも、内容的にもまとまりがなく、中途半端さを感じてしまった。より内容を持たせるためにも話の内容を吟味して今後も取材を続けてまとめあげて行って欲しい。

なお前作の軍艦島 DVD『軍艦島 FOREST OF RUINS』とカップリングした『軍艦島ダブルアンセムパック』も同時発売している。2 本パックはそれぞれを個別に購入するより安くなっている。詳しくは下記のサイトをご覧ください。

◆『軍艦島全景 gunkanjimaodyssey archives』2008 年 12 月 12 日発行 企画・制作: オープロジェクト 変形 B5 版 / 160 ページ / 全ページオールカラー / 税込価格 2,415 円 発売: 三オブックス

軍艦島 DVD と同時に今回は軍艦島の本も同時にリリースしている。ただでさえものを作ることは相当の情熱、エネルギーが必要だ。この彼ら一連の軍艦島に対する情熱、エネルギーが改めて伝わってくるような本も新たに仕上がった。

この本は現在の住宅棟地域の建物や炭鉱施設にとどまらず、島内の様々な施設、スポットの画像と閉山前の写真織り交ぜ、それを時代順に並べ、その歴史や変遷をたどり網羅している。まさに題名通り端島の「全景」という構成になっていると同時に、それらの歴史がお互いにリンクしている構成になっている。

私は事前に DVD にあわせて本も出すと聞いていた。しかし、グラフィック写真集、

本にまとめるのだらうと勝手に予想していた。正直、本に関しては新たな視点はなかなか難しいだろうとあまり期待してはいなかった。しかし、この本を見ていると単なる建物の変遷のみではなく、写真同士も連携しているようでどここの施設の写真からでも島全体の全景が見えてくるから不思議だ。彼らなりに言い換えれば「昭和の軍艦島の時代」がどの写真からも見えて来るのだ。そして時代を乗り越えて島全体の全存在が浮き上がって来る。さらに多くの関連映像と文章で資料的価値をより高めている。従っていわゆる「廃墟好き」の読者だけにとどまらず、端島研究者にとっても今後の資料となりうる本であり、利用価値が高い本といえるだろう。私も大いに活用したい。

より詳しい内容に関しては <http://www.o-project.jp> または <http://gunkanjima-odyssey.com/bbs/bbs.cgi> の11月26日前後の掲示板を参照して下さい。

多田銀山に関する著書

金丸 哲也

多田銀山の地元、兵庫県川辺郡猪名川町で同銀山に関する書籍が2冊刊行されましたので、ご紹介させていただきます。

中元十三著『猪名川町 銀山今昔』、発行「猪名川町 銀山今昔」出版の会、平成20年3月刊、232ページ、頒布価格¥1,000。

地元の小学校教諭で、長年多田銀山の研究活動をおこなっていた中元十三氏の遺稿を地元有志が編集し刊行。多田銀山の歴史年表、同氏の書いた各種イラストが素晴らしい。「猪名川町 銀山今昔」出版の会の事務局に連絡すれば入手可能、同会の連絡先については鉾山研究会事務局まで。

『黄金伝説の郷 多田銀山 史跡と伝承』、多田銀山史跡保存顕彰会、平成19年10月1日改定版発行、86ページ、頒布価格¥1,000。

銀山遺跡の各種写真が充実している。多田銀山史跡保存顕彰会の事務局に連絡すれば入手可能、同会の連絡先については鉾山研究会事務局まで。

2冊の書籍の他に「黄金伝説の郷 多田銀山」というタイトルのDVDも頒布している。今後は明治時代に多田鉾山、笹ヶ谷鉾山（島根県）、宝満山鉾山（島根県）他を経営し、「津和野の銅山王」と称された堀 藤十郎の事跡が解明されることを期待したい。堀藤十郎を含む堀家の鉾山経営の研究事例は極めて少ない。